

(1)先進地視察の概要

【視察の目的】 現在海業で検討している施設や取組について先進事例を見学し、今後の事業の参考とするため。

【日時】 令和7年8月29日(金) 8:00~19:00

【参加者】 旭市海業推進地域協議会メンバー 9名、旭市農水産課振興班 3名
千葉工業大学 2名、三井共同建設コンサルタント(株) 3名

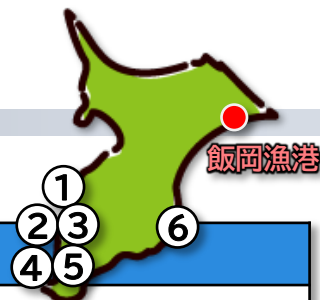
合計17名

【視察先】 千葉県安房(内房・南房総)エリア



海業取組 配置	飯岡漁港における導入機能	想定規模 (敷地面積)	施設名	施設概要
①	飲食施設	2.65 ha	①道の駅保田小学校 ③漁協直営食堂ばんや ④岩井富浦漁業協同組合 ⑤房総の駅とみうら ⑥夷隅東部漁業協同組合	里山食堂、海鮮丼と黄金アジフライ保田食堂、cafe 金次郎 保田漁協直営の飲食施設 浜の台所おかさな倶楽部 浜焼き屋、海鮮食堂とみうら亭 港の朝市、漁協直営いさばや
①	販売施設	2.65 ha	①道の駅保田小学校 ④岩井富浦漁業協同組合 ⑤房総の駅とみうら	きょなん楽市、ようちえんショップ 漁協直営市場「大漁市場」 南房総おさかなセンター
①	グランピング(宿泊)施設	2.65 ha	①道の駅保田小学校 ③漁協直営食堂ばんや	学びの宿(宿泊施設) ばんやの湯・宿泊(宿泊施設)
②	釣り竿レンタル、海上釣堀施設	0.66 ha	④岩井富浦漁業協同組合	筏釣・かせ釣り体験
②	未利用魚ミニ水族館	0.66 ha	②保田漁業協同組合	観光遊覧船(船から海底が見える)
③	漁船クルージング、船釣り、 漁業体験	約1.49ha	②保田漁業協同組合 ④岩井富浦漁業協同組合 ⑥夷隅東部漁業協同組合	観光遊覧船ばんや丸 定置網漁・地引網体験 「器械根」を漁場とした遊漁船
④	屏風ヶ浦を活かした観光事業	—	②保田漁業協同組合	観光遊覧船ばんや丸
⑤	公園隣接のカフェ	0.25 ha	①道の駅保田小学校 ⑤房総の駅とみうら	ぞうさんすむーじー TOMIURA CAFE
⑥	釣堀用いかだ	約1.39ha	④岩井富浦漁業協同組合	筏釣・かせ釣り体験
⑥	魚類(ヒラメ等)中間育成場	約1.39ha	⑥夷隅東部漁業協同組合	マダイ稚魚の中間育成場 稚魚(ヒラメ・イサキ)の放流事業
—	藻場再生、ブルーカーボン	—	②保田漁業協同組合	藻場再生・ブルーカーボンの取組(保田漁協・JFEスチール・千葉県・鋸南町)

■先進地視察報告資料



(2) 視察スケジュール

開始時間	終了時間	移動時間	視察先	摘要
8:00	—		旭市役所 集合・出発	正面玄関前集合 【バス会社】三栄交通株式会社(0479-68-4671) ※貸切大型バス1台手配(定員約50名)
		120分	↓移動 = 横芝光IC = ★野呂PA(トイレ休憩 8:55~9:10) = 鋸南保田IC	
10:00	11:00		①都市交流施設 道の駅保田小学校 (施設説明10分・施設見学50分)	千葉県安房郡鋸南町保田724 https://hotasho.jp/
11:10	12:30		②鋸南町保田漁業協同組合 (漁協説明・施設見学30分) ③【昼食】漁協直営食堂ばんや (施設説明・昼食50分)	千葉県安房郡鋸南町吉浜99-5 if-higashiawa.or.jp/archives/882 ※保田漁協直営の飲食施設 https://banya-grp.jp/
		30分	↓移動	
13:00	13:40		④岩井富浦漁業協同組合 (漁協説明・施設見学40分)	千葉県南房総市富浦町多田良 https://tairyuu.com/
13:50	14:40		⑤房総の駅とみうら (施設説明・施設見学50分)	千葉県南房総市富浦町深名505-1 https://bosonoeki-tomiura.jp/
		100分	↓移動 = 富浦IC = ★高滝湖PA(トイレ休憩 15:15~15:30) = 市原鶴舞IC	
16:20	17:10		⑥夷隅東部漁業協同組合 (漁協説明20分・施設見学30分)	千葉県いすみ市漁港埋立地 https://isumitoubu-gyokyo.jp/
		90分	↓移動 = ★海の駅九十九里(トイレ休憩 18:00~18:10)	
18:40	—		旭市役所 解散	正面玄関前解散



1. 視察の詳細

(1)都市交流施設 道の駅保田小学校



エリアマップ



【視察担当者】
道の駅保田小学校
& 附属ようちえん
中村 副所長

見どころ・確認ポイント

- 旧保田小学校をリノベーションした都市交流施設
「買う・食べる・泊まる・遊ぶ・学ぶ」といった複合機能
- 地域交流の拠点としての活用(みまもりひろば・里の原っぱなど)
- 災害における施設の活用(避難所・炊き出し拠点などの防災機能)
- 2024年「道の駅最強ランキング」全国第2位、関東第1位の評価
- 開業以来約98億円の経済効果

海業での導入機能

- 飲食施設
- 販売施設
- グランピング(宿泊)施設
- 公園隣接のカフェ



1. 視察の詳細

(1) 都市交流施設 道の駅保田小学校

保田小学校副校長の中村氏より、保田小学校設立の概要や、施設の特徴、見どころをについて説明を受けた。参加者からは、**コンセプト**がしっかりしていることや**オリジナル商品**が印象に残ったという意見が多かった。



説明内容

- ・全国で唯一「小学校」の名前を持つ道の駅であり、**丁寧に練られたコンセプト**が形になり他にはない魅力を生み出している。
- ・道の駅の従業員は約70～80名(運営会社の共立ソリューションズのスタッフ:約50名、テナント(6事業者)のスタッフ:約20名)
- ・直近の年間売上は約10億円、年間来客数は約97万人。(内訳:観光客が9割、地元利用は1割程度)海外からの観光客も年々増加。
- ・都市交流施設として子どもが遊べるプレイカフェなど多様な機能を備え、施設内で滞在が完結。保田漁協とは**連携・棲み分け**を図っている。
- ・令和元年房総半島台風の際、**避難所として機能した**。

参加者が印象に残ったポイント

- 物販だけでなく、お風呂やスタジオ、展示室もあり、**多目的に使える点**が魅力的であった。
- 外構計画**(ランドスケープ)や緑化管理が充実しており、空間全体の質が高かった。
- 特徴的なコンセプトテーマ**に基づき、**一貫した整備方針**で運営されている点が参考になった。
- RVパーク**の導入については、本市でも検討できる可能性があると感じた。
- 来場者と地元住民との**交流**を促進し、**関係人口の拡大**や**リピーターづくり**につなげている取組が印象的だった。
- オリジナル商品**の売上が高く、本市でも独自商品の開発・販売に取り組む余地があると感じた。
- 小学校エリアから始め、**来場者のニーズ**に応じて幼稚園エリアへ展開した点が、**柔軟な運営**の好例として参考になった。

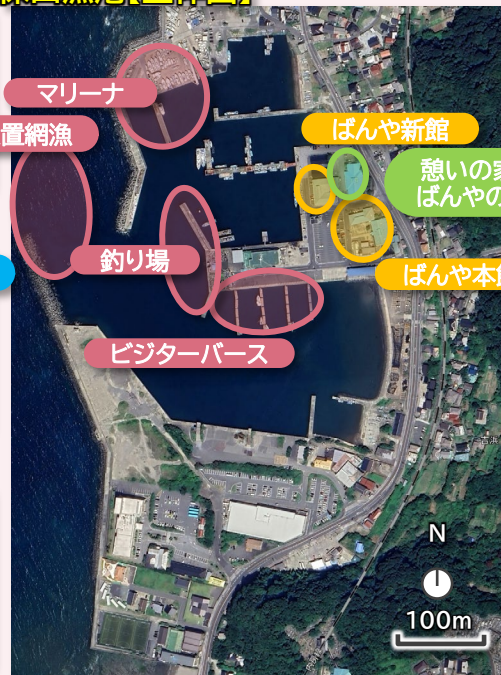
1. 視察の詳細

(2) 鋸南町保田漁業協同組合 (3) 漁協直営食堂ばんや

②③



保田漁港【全体図】



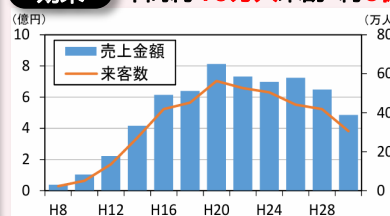
見どころ・確認ポイント

- 漁港用地の有効活用について
(地元の魚を活用した魚食普及食堂「ばんや」の取組、温泉宿泊施設・観光定置網等の事業展開)
- 道の駅保田小学校との連携について
- 藻場再生やブルーカーボン創出に向けた取り組みの経緯

ばんや新館 ※昼食場所



効果 年間約40万人来訪・約6億円の売上



【視察担当者】
保田漁協・
保田漁協ばんや株
小林氏



海業での導入機能

- 飲食施設 ※ばんや
- グランピング(宿泊)施設 ※ばんや
- 未利用魚ミニ水族館
- 漁船クルージング・船釣り・漁業体験
- 藻場再生・ブルーカーボン

1. 視察の詳細

(2) 鋸南町保田漁業協同組合 (3) 漁協直営食堂ばんや

保田漁協の小林氏から、漁港の概要や「海業」の各コンテンツの経緯や苦労について説明を受けた。参加者からは、マリーナやビジターバースについての質問が多く寄せられた。



中村氏による説明の様子



マリーナの様子



ビジターバース



ばんやのいけす



ばんやでの昼食



ばんや内部の様子



売店の様子

説明内容

- ・**マリーナ事業**は、漁協の主要収益源で、55隻係留・50隻待ち。年間売上約5,000～6,000万円、利益率6～8割と高収益。利用者は首都圏が中心。
- ・**ビジターバース**(短期停泊可能)は、鋸南町管理の浮桟橋で、最大50～60隻係留可能。年間売上は約2,000万円だが維持費でほぼ相殺。
- ・**定置網見学クルーズ**は、17人乗りの船2隻で運航していたが、知床事故以降は国の基準未整備のため**休止中**。10月に再開予定。
- ・**漁協直営食堂ばんや**は、年間来客約30万人、年間売上5億円超。客単価1,700円とリーズナブルだが、食事目的の通過利用が中心で滞在性に課題。
- ・**ばんやの湯**は、赤字続きで9月から**休業中**。また、バーチャルYouTuberの**魚娘とコラボ商品を作ったり**と新たなことにもチャレンジ中。

参加者が印象に残ったポイント

- 「ばんや」が広く、**大人数でも受け入れ可能**な店舗であり、**利便性が高い**と感じられた。
- 開設当初の**経緯や運営の背景**について伺うことができ、有意義な視察となった。
- マリーナや船の修繕施設が整備されており、提供される魚料理も充実していて印象に残った。
- 海上釣り堀やいかだが**災害に弱い**ことを学び、**リスク対策の重要性**を認識できた。
- マリーナ需要の高さに驚かされるとともに、漁協としての**収益確保の検討**が重要であると感じた。
- 温浴施設や宿泊施設は**収益が見込めず休業**していた一方で、食堂は盛況であり、他漁港との**差別化の難しさ**を再認識した。

1. 視察の詳細

(4) 岩井富浦漁業協同組合



富浦新港【全体図】



筏釣・かせ釣り体験

釣堀いけす・釣り筏の設置

漁業体験

地引網体験

定置網漁体験

大漁市場
※エリア外(道の駅富楽里とみやま内)

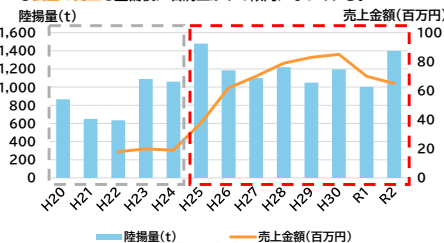
新鮮な魚をその場でさばってくれる「魚お造り処」



効果

漁獲量と食堂売上の推移(千葉県富浦漁港)

- 整備後、漁獲量の向上と安定化が見られる。
- 食堂の売上も整備後に右肩上がりの傾向になっている。



【視察担当者】
岩井富浦漁協
村井氏

見どころ・確認ポイント

- 漁港用地の有効活用について
(地元の魚を活用した魚食普及食堂「浜の台所おさかな倶楽部」の取り組み)
- 定置網漁・地引網、船釣り、釣堀いかだ、筏釣・かせ釣り体験などの取り組みについて
- 漁協直営市場、大漁市場について

海業での導入機能

- 飲食施設
- 販売施設
- 釣り竿レンタル・海上釣堀施設
- 漁船クルージング・船釣り・漁業体験
- 釣堀用いかだ

1. 視察の詳細

(4) 岩井富浦漁業協同組合

岩井富浦漁港の村井氏から漁港の概要や「海業」の各コンテンツの背景や経緯、苦勞について説明を受けた。参加者からは、漁業体験や食堂の利用者などについての質問が多く寄せられた。



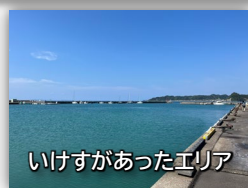
村井氏による説明の様子



質問をしている様子



富浦漁港の外観



いけすがあったエリア



地引網を
行っている場所



おさかな倶楽部の外観



漁港内を見学している様子

説明内容

- ・筏釣り・かせ釣り・釣り堀を運営しており、子どもたちも手軽に楽しめる釣り堀が最も集客・収益共に高い。
- ・令和元年の房総半島台風で湾内泊地の釣り堀が一部被災したが、ビジター客を中心に人気を維持している。
- ・漁協婦人部が立ち上げた「おさかな倶楽部」は、年間2万人が来訪する人気施設で、地元漁師が朝獲れ魚を販売する「大漁市場」も地域に根付いている。
- ・地引網体験は、大房岬自然の家との連携により学校団体(小中学生)の利用が続き、教育的事業(自然体験・職業体験)として定着している。
- ・台風被害や事故、集合時間が早い(午前4時)などの理由から、船釣り・釣り堀いかだ・漁業体験は中止している。

参加者が印象に残ったポイント

- 釣り堀いけすの取組は、本市でも導入可能性があると感じられた。
- 現状は利用できないものの、筏釣り・かせ釣りといった体験型の発想に基づいた施設であることがわかった。
- 洋上の漁業体験施設の多くが台風の被害を受け壊れたままとなっており、メンテナンスや修繕費をあらかじめ見込む必要性を認識した。
- 漁師が使用していた食堂を補助金で移設し、飲食施設として再活用している事例が参考になった。
- 市場では、漁業従事者の配偶者が店舗を営んでいたが、高齢化により担い手が減少している現状が共有された。

1. 視察の詳細

(5) 房総の駅とみうら



房総の駅とみうら【全体図】



見どころ・確認ポイント

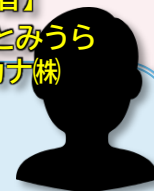
- 房総の駅とみうらについて
(開業までの経緯、施設内容、経営戦略など)
- 地元漁協との連携や地域との交流のあり方について
- 飯岡漁港で検討しているコンテンツについて
(浜焼き・ハマグリなど活きた魚介類の管理など)

海業での導入機能

- 飲食施設
- 販売施設
- 公園隣接のカフェ

【視察担当者】

房総の駅とみうら
ヤマトサカナ株式会社
川戸氏



1. 視察の詳細

(5) 房総の駅とみうら

自由見学を30分程度行い、その後、房総の駅とみうら(ヤマトサカナ株式会社)の川戸氏より施設の概要や取組などの説明を受けた。夏休み期間でもあるが平日にもかかわらず、来場者が多い様子であった。



川戸氏による説明の様子



おさかなセンター内のいけす



おさかなセンターの様子



やまと寿司の店内の様子



BBQセット



浜焼きの様子



お土産センターの様子

説明内容

- ・ヤマトサカナ(株)(運営会社)は卸売から始まり、県内15漁港や豊洲から仕入れる強い調達力を持ち、鴨川のいけすセンターで鮮魚を管理。
- ・房総の駅とみうらは、年間来客約73万人、客単価約2,000円/人、**駐車場250台分(ピーク時は不足)**、ツアーバス(2台/日)も常時訪れる人気施設である。
- ・**南房総おさかなセンター**は、「千葉の地物」をテーマに干物や貝類を中心に販売し、国道沿いのロードサイドのBBQ需要に応えている。
- ・**浜焼き屋**は、月商約3,300万円で約4種類の貝類を常備し、海鮮丼食べ放題も提供している。

参加者が印象に残ったポイント

- 浜焼きの売上が高く、**貝類人気**が顕著であった。本市でも**ハマグリ**を活用できる可能性がある。
- 多様な店舗構成**と来場者を**楽しませる工夫**がなされており、民間ならではの**フットワークの軽さ**がある。
- 新しい施設であり、勢いを感じられた。
- 活気があり、広さや浜焼き屋など**魅力的な施設**が多く、**来場者を引きつける要素**が豊富だった。
- 市場予測に基づいて整備された商業施設であり、**変化に強い運営体制**を備えている。
- 千葉県産品の活用や浜焼き・BBQ食材の提供、大学生などの**通年利用者の存在**が特徴的である。

1. 視察の詳細

(6) 夷隅東部漁業協同組合



大原漁港【全体図】



マダイ稚魚の中間育成場
稚魚(ヒラメ・イサキ)の放流事業

港の朝市

いさばや

港の朝市

器械根(きかいね)を
漁場とした遊漁船



マダイ稚魚の中間育成場(視察外)



マダイ稚魚放流の様子



遊漁船での釣りの様子



【視察担当者】

夷隅東部漁協
荘司氏



見どころ・確認ポイント

- 漁港用地の有効活用について
(港の朝市や漁協直営店「いさばや」、漁港で水揚げされた水産加工品の販売などの取り組み)
- マダイ稚魚の中間育成の取り組みについて(経緯、学生や小学校などの地域との関わりなど)
- 「器械根」を漁場とした遊漁船について

海業での導入機能

- 飲食施設
- 漁船クルージング・船釣り・漁業体験
- 魚類(ヒラメ等)中間育成場



1. 視察の詳細

(6) 夷隅東部漁業協同組合

夷隅東部漁港の庄司氏・滝口組合長から漁港の概要や「海業」の各コンテンツの経緯や苦勞について説明を受けた。参加者からは、稚魚の育成やいさばやの経営についての質問が多かった。



説明内容

- ・漁協直営いさばやは、市場隣の仲買詰所を改装し、漁協有志が地元産品を適正価格で販売する目的で開設、令和元年に国の交付金で建設された。
- ・漁港利用計画において、野積地を泊地へ用途変更するために3年の時間を要した。土地利用の規制調整の苦勞からも、海業は非常に有用な制度である。
- ・漁協は青年部や婦人部など多様な組織を持ち、若手漁業者も多く、豊かな漁場を活かして周年操業を行っている。
- ・大原高校との連携によるマダイ稚魚の中間育成や、ヒラメ放流など、教育・資源保全活動にも積極的に取り組んでいる。
- ・港の朝市は市が主体となって3年前に協同組合化し、年間来場約15万人・売上約1.6億円と発展、市が漁協と出店者の間を調整しながら運営している。

参加者が印象に残ったポイント

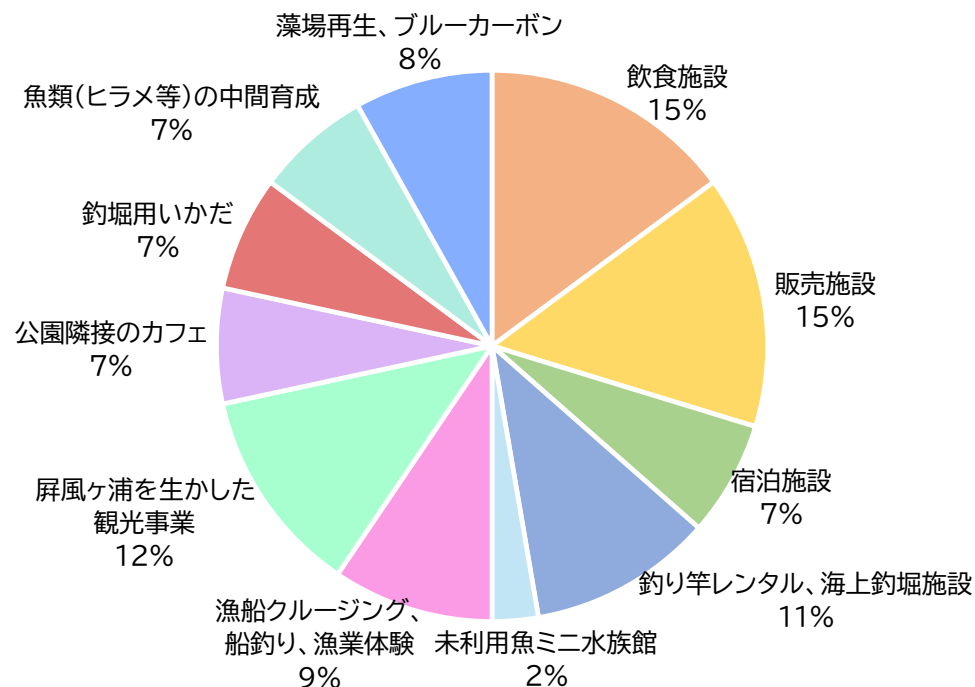
- 漁港規制により事業推進が難しい場合があるとの説明を受けた。また、稚魚の中間育成は魚種によって難易度が高く、環境や水温条件が大きく影響することを学んだ。
- ヒラメの稚魚育成を断念した経緯を知り、育成の難しさやリスクを理解できた。一方で、マダイの育成には根気強く長期的に取り組む必要があることも確認された。
- 朝市の取組は好事例であり、漁業者と海業の共存を丁寧に進める必要があると感じられた。
- 季節ごとの特徴的な魚種を上手に活用しており、地域資源の有効活用が進んでいる。
- 市と漁協の間に良好な信頼関係が構築されており、市場組合とも円滑に連携が図られている点が印象的であった。

2. 参加者アンケート結果

(1) 視察を踏まえ、改めて飯岡漁港で取り入れたいコンテンツ

いずれの項目も、7～15%の範囲に収まっており、幅広い関心が示された。

さらに、検討している以外に取り入れたいコンテンツについては、**キャンピングカー**や**車中泊**の駐車スペースの整備や、**ツアー**などのコンテンツが挙げられた。



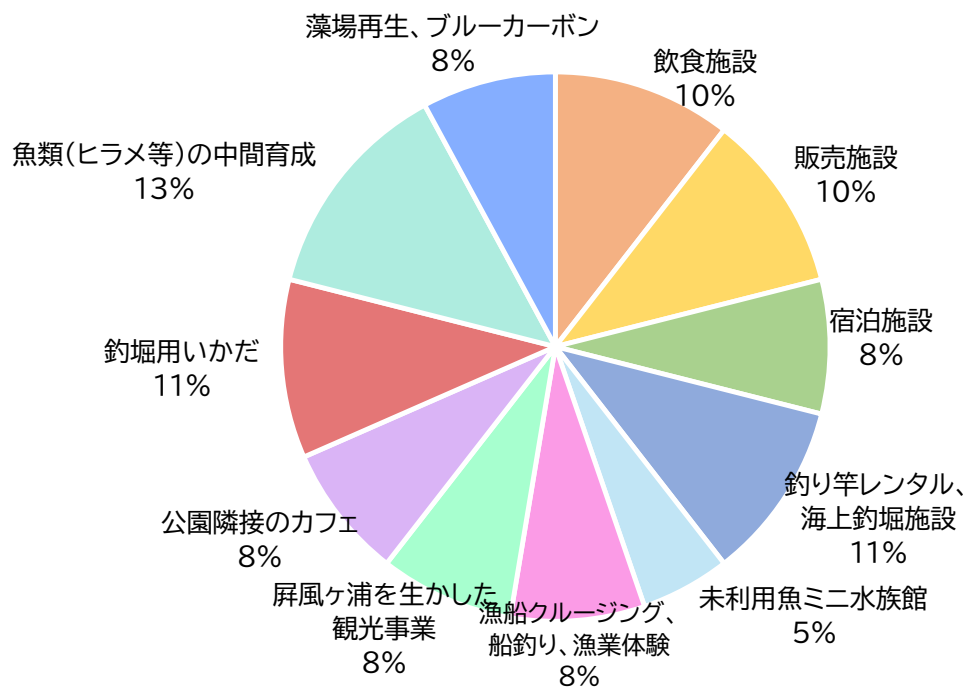
検討している以外に取り入れたいコンテンツ

- オリジナル商品開発
- キャンピングカー専用の駐車スペース整備
- サーフィンスクール
- 日帰り温泉
- 市営の潮干狩り場
- イルカウォッチング
- パラグライダー
- ダイヤモンド富士が見えるツアー
- 西伊豆の海釣りGO!のようなもの
- インスタ映えスポット
- PVパークのエリア設定など
- 定期的なイベント開催に合わせて東側(外堤防の外)砂浜での地引網など(例えば朝市)
- 道の駅や市内ホテルとの連携
- マリーナ(クルーズ船置き場)
- 飲食・物販施設の活かす程度のミニ水族館

2. 参加者アンケート結果

(2)視察を踏まえ、飯岡漁港海業計画で検討している施設や取組の中で課題があると感じた事業

回答は幅広く分かれており、参加者からさまざまな意見が集まった。



理由・感じたこと

- 飲食施設
 - ミニ水族館は飲食・物販施設の活かす程度がよい
 - 飯岡漁港への水揚げが少なく、**とれたて**には課題がある
- 販売
 - 旭市での特徴のある販売物と道の駅への影響、**差別化**
- 宿泊施設
 - 宿泊施設は他の施設との競合が懸念される
- 釣り竿レンタル、海上釣堀施設
 - 飯岡は外洋のため**常時波が高く、運営が難しい**
 - 外洋で施設管理は難しい
- 未利用魚ミニ水族館
 - 維持管理の担い手が不在では？
- 屏風ヶ浦を生かした観光事業
 - 具体的な**ビジネスのイメージ**が見えない
- 公園隣接のカフェ
 - 個性のないカフェでは**効果が薄い**
- 魚類(ヒラメ等)の中間育成
 - 水温が高く育成は難しいと思う
 - 赤潮発生時は**全滅リスク**が高く、**漁協ニーズ**の確認が必要である
- 藻場再生、ブルーカーボン
 - 海浜の**構造上**難しいのではないかと

2. 参加者アンケート結果

(3) その他意見

視察を通じて、海業を進めるうえでの考え方や見方に生じた変化、および全体を通して挙げられた課題

- 他施設と同じでは差別化が難しく、飯岡漁港らしさをいかに具現化するかが重要であると感じた。
- 海匠漁協が本気で取り組みたいことは何か、漁業者が何を求めているのかを明確にする必要がある。
- 漁港・漁業にとどまらず、農業・畜産・観光など旭全体での相乗効果を目指すことが重要であり、地域とつながるストーリーづくりやイベントの実施も求められる。
- 予定地が広いため、工夫しなければ見栄えが悪くなる懸念がある。
- 投下資本の回収を考慮すると、フルメニューでの整備には慎重な検討が必要である。
- 漁協が主体的かつ能動的に動くことが極めて重要である。
- 漁業関係者の熱意と合意形成のプロセスが今後の成否を左右する。
- 漁業を中心とした海業が望ましい一方で、房総の駅のようなスタイルも選択肢となり得る。立地に応じた柔軟な工夫が求められる。
- 漁業組合がより積極的に関与し、早期にニーズを把握することが必要である。
- 「海業」という概念自体の理解が難しい人が多く、丁寧な説明や共有の場の設定が求められる。

視察全体を通して感じたこと

- 盛りだくさんな内容の視察であり、非常に参考になった。
- 飯岡漁港らしさを表現できる施設があると良いと感じた。
- 地域の特産品を開発・発掘し、「ここにしかないもの」を販売するとともに、地域独自のイベントや体験の提供、行政による規制緩和が求められる。
- あいまいなものではなく、個性(コンセプト)のあるユニークな施設とすることが重要であり、「ここに来たい」「ここが目的地」と思わせる場所にする必要がある。
- インバウンドを特に意識する必要はなく、空港から1時間圏内にあるものの、移動手段の課題が大きいと感じた。
- 市町村営漁港と県漁港との間に管理面での壁があると感じた。
- 多様な施設を見学できた点は良かったが、真夏の開催であったこともあり、もう少し時間をかけて施設を隅々まで見られるとより良かった。
- 視察を通じて様々な場面で学びが得られ、有意義であった。